



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



平成22年度昭和大学卒業式・ 学位記伝達式開催される 歯学部長 宮崎 隆

国内観測史上最大の東北地方太平洋沖地震の余震やライフラインへの影響が残る中、3月17日(木)に、五反田の「ゆうぼうとホール」において、平成22年度昭和大学卒業式が執り行われました。

今年は薬学部が6年制に移行中で卒業生がいないので、医・歯・保健医療学部と合わせて総勢386名の卒業生が対象でした。心配された交通機関の影響により参加できない卒業生もいましたが、大勢の保護者を含めて会場は埋め尽くされました。



式は午前10時に昭和大学管弦楽団の演奏で厳かな雰囲気の中に開会し、まず震災の犠牲者に対して全員が黙祷をささげました。校歌斉唱に引き続き、各学部の総代に片桐学長から学位記が授与されました。歯学部82名の総代は古屋まど香さんでした。引き続き学長から「至誠一貫の精神を忘れず各分野の医療人として患者の健康のために奉仕するよう」と告辞がありました。小口理事長からは「学祖上條博士の不求一身安(一身の安らぎを求めず)」という言葉に胸に刻んで人のために尽くすように」と祝辞がありました。

各種表彰に移り、歯学部関係では、上條賞を古屋まど香さん、同窓会賞を関本真子さん、井上万里子さん、宮久保あや子さん、そして上條旗ヶ岡賞をバレーボール部の松本怜奈さんが受賞しました。四ノ宮父兄会長から卒業生(代表者: 歯学部の安齋顕吾君)に記念品贈呈があり、在校生送辞と卒業生答辞のあとに、卒業の歌「贈る言葉」を斉唱しました。最後に恒例となった応援指導部による卒業生へのエールがあり、11時半に閉会しました。



引き続き各学部に分かれて午後12時半から、歯学部は旗の台校舎4号館500号室において、学位記伝達式が執り行われました。宮崎歯学部長、井上副病院長、飯島同窓会長の挨拶に引き続き、卒業生全員に宮崎歯学部長から学位記が伝達され、引き続き学生表彰、記念品贈呈および花束贈呈を行い午後1時半に閉会しました。学生表彰者は以下の通りです。歯科医学生賞: 佐藤孝仁, 守屋佑美, 山岸香奈, デンプライ賞: 崎川真帆, 早川世志子, 歯科補綴優秀賞: 中島 葵, ハノー賞: 関 麻衣, 学生部長賞: 松本怜奈, 教育委員長賞: 中島 葵(敬称略)

卒業生代表の笠木星児君から大学に記念品としてワイヤレスマイク・アンプセット一式と校章刻印機が贈呈されました。卒業生の前途を祝し、今後の活躍を祈念します。

謝恩会が行われました

D6チュータ会議 佐藤裕二

3月17日卒業式後に、大変な時期ではありますが落ち着いた雰囲気の中で謝恩会が行われました。震災の犠牲者への方への黙祷を捧げた後、小口理事長から「友人や先生と会える一生で最後の機会」というご挨拶をいただきました。片桐学長の祝辞、岡野病院長の乾杯に続いて、井上教育委員長、飯島同窓会長の祝辞がありました。学生たちは、教員に感謝すると同時に、今後のますますの精進を誓いあっていました。学生によるランキングでは、授業がわかりやすい島田幸恵先生、熱意のある天野均先生、白衣が似合う片岡竜太先生、父親になって欲しい宮澤康先生、母親になって欲しい井上美津子先生、ポリクリでお世話になった馬淵あずさ先生、かっこいい朽名智彦先生、かわいい倉林仁美先生が表彰されました。5年生の臨床実習の責任者・6年生の教育担当と2年間にわたってお世話させていただいた私も熱意のある先生として表彰してもらえました。私にとっても特別な思い出のある学年です。私はできなかったのですが今後は、個性を伸ばして、成長して欲しいと強く願いました。実行委員長の笠木君から、教員・職員・ご父兄への深い感謝の挨拶で幕を閉じました。



立川先生・吉村先生退職記念講演が行われました

昭和歯学会常任理事 中村雅典

2月26日(土曜日)に、今年度でご退職される立川哲彦教授(口腔病理学)と吉村節教授(歯科麻酔学)の退職記念講演会として、昭和歯学会特別例会が昭和大学歯科病院第二臨床講堂で開催されました。

立川先生のご講演タイトルは「形態から病態分子へ、そして病態分子形態学への確立へ」で、東京歯科大学時代からの形態学を主体とする病理学研究から、その病気の本体の解明を目指した分子病理学的研究まで多岐にわたり、精力的なご研究内容についてご講演いただきました。特に近年先生のご教室で開発改良された Laser Microdissection 法の方法論とその応用については、国内外で高い評価を受けており、この方法がこれからの様々な研究領域での基本的な方法として確立されていくと思われま



吉村先生のご講演タイトルは「わが麻酔人生に悔いなし～若い方々へのメッセージ」でした。九州歯科大学在学時の外科学との出会いから始まり、東京医科歯科大学時代から昭和大学での歯科麻酔の専門家としての数多くの症例やその時々の処置法とその改良についてご講演いただきました。ご講演から先生への歯科麻酔に対する熱い思いを聴衆は強く感じました。また、歯科麻酔学の教育についてもお話いただき、常に学生に対する臨床を想定した教育は、今後の我々に大変参考になるものでした。



立川教授と吉村教授は昭和大学歯学部創設期から本学の発展のためにご尽力されてきました。立川教授は学生教育だけでなく、昭和大学全体の各種委員会や昭和大学学生部長として、また、吉村教授は医学部麻酔学教室との医療連携確立というように、歯学部・歯科病院の基礎ならびに発展に多大な功績を残されました。我々はこれまでのおふたりのご努力をもとに、なお一層精進していかなくてはならないという思いを新たにしました。立川先生、吉村先生、長い間ありがとうございました。

病院実習・学外実習にあたっての学生心得について

歯科医学教育推進室 片岡竜太

昭和大学では「チーム医療ができる医療人を育てる」をキーワードとして、4学部連携教育を推進しています。

4学部連携教育は富士吉田校舎における全寮生活を基盤とした教育から始まります。初年次体験実習では、4学部学生が混じったグループ編成で病院見学実習、福祉施設実習など、学外実習を行っています。この教育の卒前のゴールは、5年生で実施する昭和大学附属病院における「学部連携病棟実習」です。4学部連携教育を推進していく中で、各学部でそれぞれ制定された学生心得を昭和大学学生の「病院実習・学外実習にあたっての学生心得」として一本化すべきであるという意見が片桐学長から出され、各学部の教育推進室長会で原案を作成し学部長会で承認されました。

この学生心得は、「態度・マナー」と「服装・身だしなみ」の2つの大項目からなり、さらに「態度・マナー」には「一般的心得」と「個人情報・プライバシー」という中項目、「服装・身だしなみ」には「白衣」「頭髪」から「メイク」「装飾品」まで細かい規定が設けられています。

学生は昭和大学学生として、教職員は学生に規範を示す昭和大学教職員として、この学生心得を遵守することにより「昭和大学人」としてプライドと一体感を持つきっかけになると考えます。

昭和大学災害医療救護チームに参加して

口腔リハビリテーション科 高橋浩二

3月19日から24日の6日間、昭和大学災害医療救護チーム 二次隊の一員として岩手県山田町の医療活動に参加しました。山形県庄内から陸路8時間ほどで山田町に着きました。

自衛隊の獅子奮迅の活躍で道路だけは通れるようになっていましたが、繰り返し報道されているように津波による破壊は筆舌に尽くしがたく、町の主要部位は瓦礫の山となっていました。

医療戦略は昭和大学と国立病院機構、地元の開業医2、3名が中心になって組み立てていました。歯科戦略については私に一任されました。私はここで成すべきことは、不十分な機器によるcureよりも被災者へのcare、歯周病の悪化や誤嚥性肺炎のpreventionのための強力な啓蒙活動、県歯科医師会より訪問診療装置(タービン、吸引付き)を得た地元の歯科医との協同診療、そして行政に協力しながら円滑なしかも多方面に満足頂ける地元の歯科医療へのバトンタッチを目指すことと考え活動を行いました。

実働4日間でしたが、三次隊の阿部有吾先生、四次隊内田圭一郎先生へのレール作りはある程度できたものと思います。

第2回臨床実習終了時 OSCE (iOSCA) が実施されました

iOSCA 実行委員長 山本松男

3月4日(木)に第2回臨床実習終了時OSCE(次回から正式名integrated OSCA,本文中以下iOSCA)を実施しました。昨年の第1回目は、何から何まで初めてでしたので一学年を4つのグループに分けて4つの課題群を1日1群ずつ、4日にわたって実施しました。本年は2回目で経験があることや学生に対する公平性を重視して、98人の学生を洗足歯科病院開始組と旗の台校舎開始組の2グループに大きく分けて、1日で実施しました。集合を朝早く8時10分としましたが、大きな支障もなく実施することが出来ました。

iOSCAは個々の設問は難しくないのですが、治療の流れに沿った判断や手技が出来るかどうか、医療面接などで実際に患者(役)から必要な情報を聞き取れるのかなどに重点を置いています。診療参加型実習の参加を抜きには修練を積み上げられない臨床的な「実践力」の到達度を評価しフィードバックをします。

本年はバーチャルペーシェントを新たに採用しました。歯科補綴学教室馬場教授のご指導のもとに完成していたものですが、分野を問わず、基礎知識の確認から臨床能力まで幅広く評価できることから、歯学部



の強力な教育手法の一つになりました。

教員にとっては、教育の目標の一つである到達すべき臨床能力(Competency: コンピテンシー)という視点から準備に関わるために、教育の質を高める貴重な機会にもなりました。ご協力をいただきました皆様に感謝を申し上げます。

歯科技工士研修生修了式が行われました

中央技工室長 佐藤裕二

歯科病院では新東京歯科技工士学校の技工専攻科の研修生を1年間受け入れています。3月7日に修了発表会として、症例発表が行われました。今回で14年目となりますが、1年間の充実した研修ですっかりたくましくなったと感じました。その後、歯科病院から岡野病院長、佐野副院長、荒木田事務長ほか、新東京歯科技工士学校からは、福原校長、中村理事長ほかが出席され、7名の修了式が行われました。研修生の向江康成さんが最優秀研修生に選ばれました。その後、会場を移して懇親会が行われ、研修生達の将来の夢などについて和やかに談話しました。来年度も7名の研修生を受け入れる予定です。マン

ツーマンで研修生を熱心に指導してくださった技工士の方々や、お世話になった歯科医師・スタッフ・事務の方々に厚くお礼申し上げます。



選抜Ⅱ期入試が実施されました

入試常任委員 五十嵐 武

平成23年度歯学部Ⅱ期入試が2月27日(日曜日)に旗の台キャンパスで実施されました。選抜Ⅱ期試験では募集人員5名に対して59名(12倍、昨年比13名減)の志願者があり、センター利用Ⅱ期試験(2名募集)では12名、さらに編入学Ⅱ期試験(若干名募集)では7名の志願者がありました。試験当日は学力試験(英語、数学、理科)と面接が行われ、合格発表は3月1日(火曜日)に旗の台校舎での掲示とホームページで行われました。

合格者は選抜Ⅱ期試験で5名(男子1名、女子4名)、センター利用Ⅱ期試験で2名(女子2名)、編入学Ⅱ期試験で1名(女子1名)を発表しました。全国的に歯学部志願者数が年々減少し、今回も厳しい入試になることが予想されました。本学の推薦・選抜Ⅰ期・Ⅱ期試験では、昨年比で15~20%の志願者数の減少となりましたが、いずれも募集人員を上回る受験生の志願があり、ある程度の倍率を持って選考することができました。以上をもちまして、平成23年度入試が無事終了しました。ご協力いただいた職員の皆様、誠にありがとうございました。

試験	募集	出願期間	試験日	合格発表
推薦	25名	H22. 10. 18~29	H22.11.7	H22.11.9
センターⅠ期	約4名	H23. 1. 4~ 21	H23.1.29	H23.2.5
センターⅡ期	約2名	H23. 2. 7~21	H23.2.27	H23.3.1
選抜Ⅰ期	50名	H23. 1. 4~ 21	H23.1.29	H23.2.1
選抜Ⅱ期	約5名	H23. 2. 7~21	H23.2.27	H23.3.1
編入Ⅰ期	若干名	H22. 10. 18~29	H22.11.7	H22.11.9
編入Ⅱ期	若干名	H23. 2. 7~21	H23.2.27	H23.3.1

歯科医師国家試験結果速報

D6 チューター会議 佐藤裕二

第104回歯科医師国家試験合格者が3月22日に発表になりました。本学は合格率76.8%(全国29大学平均71.0%, 私立17校平均66.6%, 私立3位)でした。学生の努力と教員の熱心なサポートのおかげです。ありがとうございました。

IADRに参加しました

D4 塚崎雅之

3月16日から4日間にわたり、アメリカ・カリフォルニア州のサンディエゴで第89回IADRが開催されました。私は口腔生化学教室の先生方にご指導頂き、Mechanisms Controlling Osteogenesis のセッションで口演発表する機会を頂きました。

発表に対して海外の研究者から質問を受けたり、意見交換をするのは非常に良い刺激になりました。なお、口腔生化学教室からは鈴木大先生、吉村健太郎先生が発表され、学会全体では合計約3700演題が発表されました。非常に活気がありスケールの大きな学会という印象を受けました。発表内容は基礎から臨床に関するものまで多岐に渡り、高度な研究内容を多く勉強することができました。このような機会を頂いた口腔生化学教室の先生を始め、昭和大学の先生方に感謝申し上げます。



and hard work Japan will soon be back to beauty and glory of the recent past. I convey my prayers and well wishes for a speedy recovery for Japan. I would like to convey my heartfelt thanks to staff of Department of radiology, international exchange centre, Prof Miyazaki and all those who directly or indirectly helped me in all my endeavours. I also extend you all a warm welcome to India.



武重優秀クラブ賞 歯学部長賞を受賞しました

D弓道部 主将 馬場 聖

今回、歯学部長賞という名誉ある賞を受賞できたことに、弓道部部員一同喜んでおります。今年度の歯学部弓道部の現役部員は人数が少なく、試合に出る事の出来るギリギリの人数でした。しかしながら引退された先輩方のご協力と現役部員の普段からの頑張りにより、オールデンタルでは女子団体戦18校中4位という成績を残し、女子個人では優勝、準優勝、3位と上位独占という快挙を成し遂げる事が出来ました。これらの結果は現役部員の頑張りだけでは到底成し遂げられない事であり、引退された先輩方のご指導とご協力、OB、OGの先生方のご支援、そして宮崎先生のご尽力のおかげだと今更ながらに感じております。この場をお借りしてお礼申し上げます。今後もこの賞に恥じぬよう精進していきたいと思っております。皆様、これからもよろしくお願い致します。

My experiences at Showa University

Dr. Revan Kumar Joshi

“Until this moment, I never understood how hard it was to lose something you never had.” I use this famous quote as my first lines, as it sums up my feelings in the most appropriate way, as I leave Showa University after staying here for a year. I think I was very fortunate to carry out my research works under guidance of the team of dedicated teachers headed by Prof. Tomohiro Okano. I am glad that he encouraged me, to learn a large range of matters spread over different branches of dentistry. I got an opportunity to attend various seminars and conferences, which have helped me, get a first hand knowledge of the latest happenings in oral radiology. It was enthusiasm of the staff of department of radiology, to help me learn the use of technology that inspired me to improvise myself. Having said this, I would like to add that it was not only the academic excellence of the teaching faculty that was inspirational but also their work culture, discipline, and dedication that has made an indelible mark on my memories. My rendezvous with Japanese people and their culture has changed my approach to various aspects of life. I can proudly say that this stay in Showa University has made me a better student, better teacher, better researcher and a better human being in all. Though I am very sorry to leave Japan at the time of this disaster, I think by all your dedication

診療統計(平成23年2月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	17,886	777.7	743.0	655.9
入院患者	468	16.7	13.8	17.7

行事予定

広報委員長 井上 富雄

4月 1日(金):進級式・白衣授与式(D5),
D2・D3・D4進級式
4月 2日(土):大学院入学式
4月 4日(月):D6進級式, D2・D3・D6健康診断
4月 5日(火):D4・D5健康診断

編集後記

歯科補綴学教室 樋口大輔

この大震災発生時、私は外来にて治療中でした。揺れが収まったところで、同僚と共に患者様を駐車場に退避させ、けが人がいないことを確認しました。電車が全て止まり、すぐに帰宅出来ない患者様も多くいましたが、事務長、病院長の指示の下、教職員は夜遅くまで対応にあたっていました。